戦後強制抑留・引揚死没者慰霊碑

左：平和祈念碑（引揚）
右：追悼慰霊碑（戦後強制抑留）

建立の趣旨

「旧ソ連による戦後強制抑留」や「終戦直後の混乱した状況下における外地からの引揚」により、尊い命を失われた方々を追悼し、このような悲劇を後世に継承することにより、永遠の平和を祈念するものです。

戦後強制抑留･引揚死没者慰霊碑入口（千鳥ヶ淵）

慰霊碑説明文

向かって左側の碑

引揚に伴う死没者の永遠の
平和祈念碑

昭和20年８月、今次大戦が終結し、終戦の大混乱の中、生活のすべてを失い、苦難の末祖国に引揚げてこられた方々は約320万人にも及んだ。しかし、終戦の失意と疲労困憊の極限状態にあった引揚者にとって祖国への道のりは遥かに険しいものであり、引揚げの途中、20万人余りが犠牲になった。

これら引揚者の過酷な体験を記憶し、後世に伝えるとともに、犠牲となられた方々へ深い哀悼の意を表し、恒久の平和を祈念して、この碑を建立する。

向かって右側の碑

強制抑留者の尊い命を失われた方々の
追悼慰霊碑

昭和20年８月、今次大戦が終結し、武装解除後にもかかわらず、旧ソ連は約57万5千人もの軍人軍属及び民間人をシベリアや中央アジアなどに長期にわたり強制抑留し、鉄道敷設や森林伐採などの過酷な強制労働に従事させた。栄養失調や極寒の劣悪な作業環境下で約5万5千人が犠牲になった。

この悲惨な事実を風化させずに、後世に伝えるとともに犠牲となられた方々へ深い哀悼の意を表し、恒久の平和を祈念して、この碑を建立する。

【石碑デザイン】

広井　力（ひろい　つとむ）氏（彫刻家）

・1925年東京都生まれ
・東京学芸大学名誉教授
・大凧会館（埼玉県春日部市）名誉館長
・モダンアート協会会員
・日本美術家連盟会員
・2004年瑞宝中綬章叙勲

平成22年8月建立
独立行政法人
平和祈念事業特別基金

【デザイン者の設計コンセプト】

戦後強制抑留及び引揚に伴う死没者の方々が日本の家、家族の待つもとに帰国したいという願いを、象形文字の「六」が家屋の形からなっていることから六角形で表現するとともに、国花である桜色の石材（万成石（まんなりいし）※）を使用するなど、日本へ、そして家族への想いを強く表しています。

※　万成石は、岡山市で産出される花崗岩で、「さくら御影」とも呼ばれています。